

延岡城下図屏風などが並ぶ1階展示スペース



若山牧水の「しらゆりびと照れるひかりに煙りあひて咲きつづける石部の桜」



中島千波の「石部の桜」

一対のうち、延岡城と新能が描かれている右六曲をレイアウトしたイアウトした緞帳(ごんちょう)が延岡文化センター大ホールで使用されている。

延岡市松原町の精孝美術館(吉田康世館長)で展示作品の入れ替えが行われ、宮崎県と延岡市の有形文化財に指定されている「延岡城下図屏風」が1年ぶりにお目見えした。

延岡城下図屏風は六曲 平成28年に宮崎県から有1双。昭和63年に延岡市、有形文化財に指定された。

精孝美術館 作品入れ替え

「延岡城下図屏風」1年ぶり展示

延岡市松原町

4/10

今回は、開館時以来1年ぶりとなる同屏風のほか、おもに「春・夏」をテーマにした22作品を展示。若山牧水延岡顕彰会前会長の塩月眞さん選定による牧水コーナーには、歌集「山桜の歌」所載の「しらゆり」と照れるひかりに「煙りあひて咲きしづれる 山さくら花」はじめる点が並ぶ。

また、良寛研究者としても知られる画家津田青楓の「紙雛」封(日本画)など掛け軸作品4点のほか、日本画家中島千波の「石部の桜」(リトグラフ)、「石山義秀の「桜島」(油彩画)、宮崎出身の瑛久の「春の水面(リトグラフ)」など季節を感じさせる作品の数々が訪れた人の目を楽しませている。

吉田館長は「延岡城下図屏風は6月末ごろまでの展示です。この機会にぜひご覧になってください」と話している。

精孝美術館は昨年2月、一般社団法人きよた

か美術館(吉田清子代表理事)が吉田病院敷地内に設立。医療法人建悠会吉田病院(吉田建世理事長)創設者の故・吉田精孝氏が生前収集、所有した美術品の展示を目的に、市内初の美術館としてオープンし、季節ごとに作品を入れ替えて展示している。

開館時間は平日が午前11時から午後4時。休館日は水・土・日曜日、祝

日、吉田病院休診日。入館無料。問い合わせは同館(☎延岡37・3191)。

城山で顕彰会

橋架け、衛生市長で俳人

初代、9代の仲田翁をしのぶ 延岡

4/10

司延岡市長が「大変偉大な先達で行政、政治、経済に精通していた方」と業績や人柄をたたえた。

参列者が一人ずつ銅像前で献酒。顕彰会理事の白石良盛延岡高校同窓会企画部長が「巷史」の俳句で多くの句をつくった仲田の遺句2首「崖若葉白雲飛べり日は高く」二つ橋虹かかりけり時の鐘」を讀み上げた。

また、市内の俳句会の代表者ら6人が献句、献歌。式後には懇親会があり、銅像前で食事して歓談しながら仲田をしのんだ。



初代と9代延岡市長を務めた仲田又次郎の第54回顕彰会式典が8日、同市城山公園の仲田又次郎翁銅像前で行われた。仲田は「橋架け又次郎」「衛生市長」と呼ばれるなど都市発展の基礎を築き、市民に親しまれた。延岡市薬剤師会初代会長でもあり、延岡市西臼杵郡薬剤師会と延岡医薬分

業支援センターを中心とした顕彰会が毎年この時期に式典を開いている。式典には約40人が出席した。顕彰会会長の田中俊一延岡市西臼杵郡薬剤師会会長は、西郷隆盛率いる薩軍が橋を落としながら移動していたことに触れて「それから50年。仲田先生がその時に落とした橋を架け直したかもしれない」と歴史に思いをはせた。読谷山洋

仲田又次郎翁銅像前で献酒する参列者たち